

## 中部圏景気基準日付（景気の暫定山）の設定について

公益財団法人中部圏社会経済研究所では、中部圏景気動向指数有識者会議の検討を踏まえて、中部圏の景気の山谷を示す「中部圏景気基準日付」を設定している<sup>1</sup>。

このたび、有識者会議メンバーである

大正大学地域構想研究所教授 小峰 隆夫先生（有識者会議座長）  
大阪経済大学経済学部教授 小巻 泰之先生

のお二人から、足元の経済状況を鑑み、中部圏景気基準日付（景気の暫定山）の設定についてご検討をいただいた。

当財団では、上記のご検討の結果を踏まえて、中部圏（東海3県（岐阜、愛知、三重）、北陸3県（富山、石川、福井）、中部5県（長野、岐阜、静岡、愛知、三重）、中部9県（富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重））の景気の暫定山について、図表1のとおり設定した。

本レポートは、検討過程において使用した資料<sup>2</sup>をまとめ、今後の景気局面の特徴について解説するものである。

<sup>1</sup> 2016年11月に初めて開催された中部圏景気動向指数有識者会議と、その時点における中部圏景気基準日付の設定については、資料「中部圏景気基準日付の設定と中部圏景気動向指数の概要について」（[http://www.criser.jp/research/documents/2016.11.30gaiyou\\_doukou3.pdf](http://www.criser.jp/research/documents/2016.11.30gaiyou_doukou3.pdf)）を参照。

<sup>2</sup> 「中部圏景気基準日付の設定（東海3県）」  
（[http://www.criser.jp/bunnseki/documents/2021.05.13\\_01\\_keikikijun\\_tokai3\\_settei.pdf](http://www.criser.jp/bunnseki/documents/2021.05.13_01_keikikijun_tokai3_settei.pdf)）、  
「中部圏景気基準日付の設定（北陸3県）」  
（[http://www.criser.jp/bunnseki/documents/documents/2021.05.13\\_02\\_keikikijun\\_hokuriku3\\_settei.pdf](http://www.criser.jp/bunnseki/documents/documents/2021.05.13_02_keikikijun_hokuriku3_settei.pdf)）、  
「中部圏景気基準日付の設定（中部5県）」  
（[http://www.criser.jp/bunnseki/documents/2021.05.13\\_03\\_keikikijun\\_chubu5\\_settei.pdf](http://www.criser.jp/bunnseki/documents/2021.05.13_03_keikikijun_chubu5_settei.pdf)）、  
「中部圏景気基準日付の設定（中部9県）」  
（[http://www.criser.jp/bunnseki/documents/2021.05.13\\_04\\_keikikijun\\_chubu9\\_settei.pdf](http://www.criser.jp/bunnseki/documents/2021.05.13_04_keikikijun_chubu9_settei.pdf)）。

なお、本レポートでは扱っていない2017年以前の景気の山と谷の候補についての考察は、「中部圏景気基準日付の設定（付属資料）」（[http://www.criser.jp/bunnseki/documents/2021.05.13\\_05\\_keikikijun\\_settei\\_fuzoku.pdf](http://www.criser.jp/bunnseki/documents/2021.05.13_05_keikikijun_settei_fuzoku.pdf)）を参照。

図表1 中部圏景気基準日付

東海3県

	谷	山	谷	期間		
				拡張	後退	全期間
(東海3県版)			2009年3月			
第15循環	2009年3月	2012年4月	2012年11月	37か月	7か月	44か月
第16循環	2012年11月	(暫定) 2019年4月		77か月		

北陸3県

	谷	山	谷	期間		
				拡張	後退	全期間
(北陸3県版)			2009年4月			
第15循環	2009年4月	2011年6月	2012年2月	26か月	8か月	34か月
第16循環	2012年2月	(暫定) 2018年8月		78か月		

中部5県

	谷	山	谷	期間		
				拡張	後退	全期間
(中部5県版)			2009年3月			
第15循環	2009年3月	2012年4月	2012年11月	37か月	7か月	44か月
第16循環	2012年11月	(暫定) 2018年12月		73か月		

中部9県

	谷	山	谷	期間		
				拡張	後退	全期間
(中部9県版)			2009年3月			
第16循環	2009年3月	(暫定) 2018年10月		115 か月		

## 1. CI 一致指数とヒストリカル DI の動きについて

ここでは、今次の景気局面を概観するため、東海3県、北陸3県、中部5県、中部9県のそれぞれについて、CI 一致指数とヒストリカル DI の動きを確認する。

CI (コンポジット・インデックス) は、景気変動の大きさやテンポを測定することを主な目的とする指数であり、なかでも一致指数は景気の現状を示す。経済指標の中から特に景気の動きに対して敏感に反応するいくつかの系列を選び、それらの系列の前月からの変化の大きさを合成することで、一本の指数としたものである。

図表2は各地域のCI 一致指数の動きを示している。東海3県では、直近の谷である2012年11月以降、いわゆる「アベノミクス」が本格化した2013年中に大きく上昇した。2014年に入ると、4月に実施された消費税増税の影響もあり、横ばいからやや下落基調で推移したが、2017年前後からは東海3県の景気は外需、特に米国経済の好調などに下支えされ、再びCI 一致指数が上昇傾向となった。2019年後半からは、米中貿易戦争を背景に世界経済の先行きに対する不透明感が高まったことに加え、10月に実施された消費税増税の影響もあって指数は下落に転じた。さらに、2020年に入ると、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で下げ幅を急速に拡大した。後述するとおり、ヒストリカル DI による東海3県の景気の山の候補は2019年4月となるが、CI 一致指数の局所的なピークは2019年5月である。

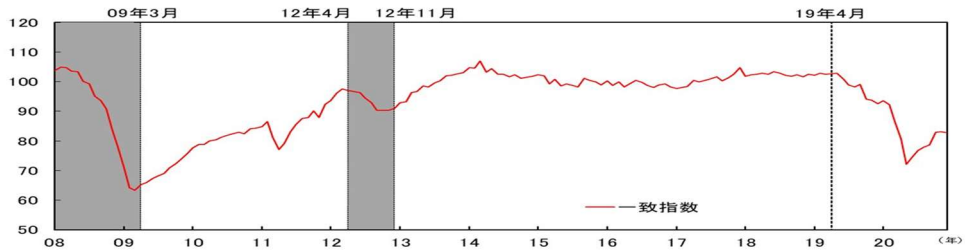
北陸3県では、直近の谷である2012年2月以降横ばいでの推移となったが、東海3県同様、「アベノミクス」が本格化した2013年中に大きく上昇した。その後は、多少の変動を見せつつもほぼ横ばいでの推移となったが、2018年後半から米中貿易戦争を背景に中国経済の減速が明らかになると、中国・韓国などアジア向け輸出割合が大きい北陸3県においては、CI 一致指数は下落基調となった。さらに、2019年の消費税増税で一段と落ち込み、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で下げ幅を急速に拡大した。後述するとおり、ヒストリカル DI による北陸3県の景気の山の候補は2018年8月となるが、CI 一致指数の局所的なピークは、それ以前の2017年後半にある。

中部5県の一致指数は、概ね東海3県の指数と同様の推移となったが、2018年後半から2019年前半にかけて緩やかな下落が始まっていた。後述するとおり、ヒストリカル DI による中部5県の景気の山の候補は2018年12月となるが、CI 一致指数の局所的なピークは2017年末から2018年中にある。

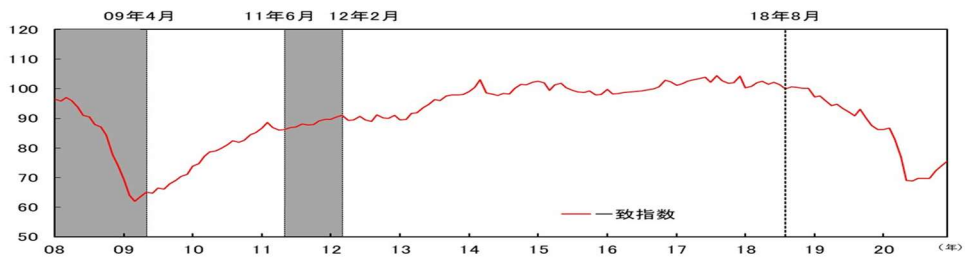
中部9県の一致指数は、中部5県と北陸3県の指数の特徴を合わせた推移となった。なお、中部9県の直近の谷は2009年3月である。2013年まで上昇基調を続けた後、2014年に入ると、横ばいからやや下落基調で推移したが、2017年前後からは、再びCI 一致指数が上昇傾向となった。中部5県と同様、2018年後半から緩やかな下落が始まっていたが、中部5県よりも落ち込みが大きく、相対的に北陸3県の推移に近かった。後述するとおり、ヒストリカル DI による中部9県の景気の山の候補は2018年10月となるが、CI 一致指数の局所的なピークは2017年末から2018年中にある。

図表2 CI一致指数 (2015年=100)

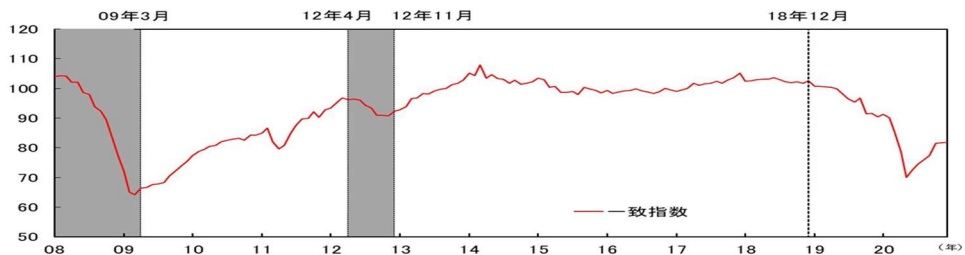
東海3県



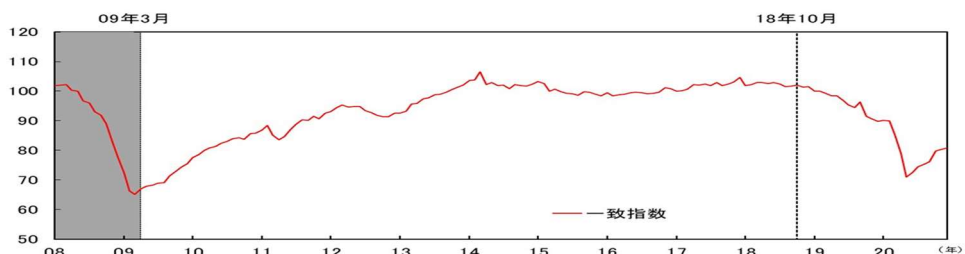
北陸3県



中部5県



中部9県



(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。シャドー箇所は景気後退局面。

次に、図表3は、各地域のヒストリカルDIの推移を示したものである。DI（ディフュージョン・インデックス）は、景気拡張（後退）の動きの各経済部門への波及度合いを測定することを主な目的とする指数である。CIと同様、経済指標の中から特に景気の動きに対して敏感に反応するいくつかの系列を選ぶが、DIの場合は、それらのうち変化方向がプラスである系列の割合を計算することで、一本の指数とする。特にヒストリカルDIは個々の系列に山と谷を設定し、谷から山にいたる期間はすべて変化方向をプラス、山から谷にいたる期間はすべてマイナスとして、DIを算出したもので、景気転換点（山・谷）の判定に利用される。具体的には、ヒストリカルDIが50（%）を下回る直前の月を景気の山、上回る直前の月を景気の谷の候補と考える<sup>3</sup>。

東海3県のヒストリカルDIの推移を確認すると、2018年中は50（%）を上回って推移してきたものの、2019年5月に33.3（%）まで低下し、50（%）を下回ったことがわかる。5月には、岐阜県の生産指数（鉱工業）、所定外労働時間、有効求人倍率（除学卒）、愛知県の有効求人倍率（除学卒）、三重県の投資財出荷指数がマイナスに転じている。つまり、主として岐阜県の経済指標が下降に転じたタイミングであったと言える。なお、2019年5月には、ヒストリカルDIの水準が3分の1以下となっており、経済活動の収縮が多く経済部門に波及したことが確認できる。したがって、50（%）を下回った直前の月である2019年4月が景気の山の候補となる。

北陸3県のヒストリカルDIの推移を確認すると、2018年7月に50（%）を下回り、8月に再度50（%）を上回った後、9月に42.9（%）まで低下し、以降50（%）を下回って推移したことがわかる。9月には、富山県と福井県の有効求人倍率（除学卒）がマイナスに転じている。つまり、雇用面の指標が下降に転じたタイミングであったと言える。なお、10月には、ヒストリカルDIの水準が3分の1以下となっており、経済活動の収縮が多く経済部門に波及したことが確認できる。したがって、2018年8月が景気の山の候補となる。

中部5県のヒストリカルDIの推移を確認すると、東海3県と同様、2018年中は50（%）を上回って推移してきたものの、2019年1月に45.7（%）まで低下し、50（%）を下回っ

<sup>3</sup> なお、ここで、複数県を内包する地域においては、ヒストリカルDIを下記の3種類定義できることに注意したい。

- ①系列別・県別（〇〇県の生産指数（鉱工業）等）に山谷をつけて、東海3県であれば7系列×3県（=21）を母数としてヒストリカルDIを計算したもの（⇒ヒストリカルDI-Aと呼ぶ）。
- ②系列別に山谷をつけて、7系列を母数としてヒストリカルDIを計算したもの。なお、ある系列について過半数の県（東海3県であれば2県以上）に山（谷）がついたところをその系列の山（谷）とする（⇒ヒストリカルDI-Bと呼ぶ）。
- ③県別に山谷をつけて、東海3県であれば3県を母数としてヒストリカルDIを計算したもの。なお、ある県について過半数の系列（4系列以上）に山（谷）がついたところをその県の山（谷）とする（⇒ヒストリカルDI-Cと呼ぶ）。

図表3で示しているのは、ヒストリカルDI-Aのみである。後述のとおり、3種類のヒストリカルDIが示す景気の山候補が異なっていた場合、CI一致指数等の動きを参考に1つに絞ることとなる。結果的に、東海3県、北陸3県、中部5県、中部9県のいずれにおいても、ヒストリカルDI-Aが示す景気の山候補に絞られる。

図表3 ヒストリカルDI-A

東海3県

	2018年												2019年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
景気基準日付																								
C1 生産指数(鉱工業)																								
岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C2 鉱工業用生産財出荷指数																								
岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+
C3 耐久消費財出荷指数																								
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-
三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C4 所定外労働時間(調査産業計)																								
岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-
C5 投資財出荷指数																								
岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-
愛知県	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
C6 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)																								
岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
愛知県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
C7 有効求人倍率(除学卒)																								
岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
拡張系列数	15	15	14	15	15	15	14	13	14	15	15	16	13	12	12	12	7	5	4	4	4	3	3	3
採用系列数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
ヒストリカルDI	71.4%	71.4%	66.7%	71.4%	71.4%	71.4%	66.7%	61.9%	66.7%	71.4%	71.4%	76.2%	61.9%	57.1%	57.1%	57.1%	33.3%	23.8%	19.0%	19.0%	19.0%	14.3%	14.3%	14.3%

	2020年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
景気基準日付												
C1 生産指数(鉱工業)												
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
三重県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
C2 鉱工業用生産財出荷指数												
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
三重県	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C3 耐久消費財出荷指数												
岐阜県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
三重県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
C4 所定外労働時間(調査産業計)												
岐阜県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C5 投資財出荷指数												
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
三重県	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+
C6 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)												
岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
C7 有効求人倍率(除学卒)												
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
拡張系列数	3	3	3	2	2	11	12	12	12	12	12	12
採用系列数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
ヒストリカルDI	14.3%	14.3%	14.3%	9.5%	9.5%	52.4%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%	57.1%

北陸3県

	2018年												2019年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
景気基準日付						山	谷	山																
C1 生産指数(鉱工業)																								
富山県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
C2 鉱工業用生産財出荷指数																								
富山県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
C3 耐久消費財出荷指数																								
富山県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	
C4 所定外労働時間(調査産業計)																								
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
C5 投資財出荷指数																								
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	
C6 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)																								
富山県	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
C7 有効求人倍率(除学卒)																								
富山県	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
拡張系列数	12	12	12	13	12	12	10	11	9	7	7	5	4	3	3	2	2	1	1	1	0	0	0	
採用系列数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	
ヒストリカルDI	57.1%	57.1%	57.1%	61.9%	57.1%	57.1%	47.6%	52.4%	42.9%	33.3%	33.3%	23.8%	19.0%	14.3%	14.3%	9.5%	9.5%	4.8%	4.8%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	

	2020年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
景気基準日付												
C1 生産指数(鉱工業)												
富山県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
C2 鉱工業用生産財出荷指数												
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
C3 耐久消費財出荷指数												
富山県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C4 所定外労働時間(調査産業計)												
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C5 投資財出荷指数												
富山県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C6 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)												
富山県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
石川県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
福井県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+
C7 有効求人倍率(除学卒)												
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
拡張系列数	1	1	1	1	3	8	8	8	8	8	8	8
採用系列数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
ヒストリカルDI	4.8%	4.8%	4.8%	4.8%	14.3%	38.1%	38.1%	38.1%	38.1%	38.1%	38.1%	38.1%

中部5県

	2018年												2019年																																																																																																														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																																																																																																			
景気基準日付																																																																																																																											
C1	生産指数(鉱工業)																																																																																																																										
	長野県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	静岡県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
C2	鉱工業用生産財出荷指数																																																																																																																										
	長野県	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	静岡県	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
C3	耐久消費財出荷指数																																																																																																																										
	長野県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	静岡県	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
C4	所定外労働時間(調査産業計)																																																																																																																										
	長野県	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	愛知県	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
C5	投資財出荷指数																																																																																																																										
	長野県	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	愛知県	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
C6	百貨店・スーパー販売額(前年同月比)																																																																																																																										
	長野県	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	静岡県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	愛知県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
C7	有効求人倍率(除学卒)																																																																																																																										
	長野県	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	静岡県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	愛知県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	拡張系列数	24	25	25	23	24	23	21	21	22	20	20	16	15	15	15	10	8	7	7	7	5	5	5	採用系列数	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	ヒストリカルDI	68.6%	71.4%	71.4%	71.4%	65.7%	68.6%	65.7%	60.0%	60.0%	62.9%	57.1%	57.1%	45.7%	42.9%	42.9%	42.9%	28.6%	22.9%	20.0%	20.0%	20.0%	14.3%	14.3%	14.3%																																																		

	2020年																																																											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																																																
景気基準日付																																																												
C1	生産指数(鉱工業)																																																											
	長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	静岡県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	三重県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+
C2	鉱工業用生産財出荷指数																																																											
	長野県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	静岡県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	三重県	+	+	+	-	-	-	-	-	-	-	-
C3	耐久消費財出荷指数																																																											
	長野県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	岐阜県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	静岡県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	三重県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+
C4	所定外労働時間(調査産業計)																																																											
	長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	三重県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+
C5	投資財出荷指数																																																											
	長野県	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	静岡県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	愛知県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+	三重県	-	-	-	-	-	+	+	+	+	+	+
C6	百貨店・スーパー販売額(前年同月比)																																																											
	長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	静岡県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	三重県	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
C7	有効求人倍率(除学卒)																																																											
	長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	拡張系列数	5	4	4	3	4	17	19	19	19	19	19	採用系列数	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	ヒストリカルDI	14.3%	11.4%	11.4%	8.6%	11.4%	48.6%	54.3%	54.3%	54.3%	54.3%	54.3%																								



中部9県

景気基準日付	2018年												2019年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
C1 生産指数(鉱工業)	▲																							
富山県	▲																							
石川県	▲																							
福井県	▲																							
長野県	▲																							
岐阜県	▲																							
静岡県	▲																							
愛知県	▲																							
三重県	▲																							
滋賀県	▲																							
C2 鉱工業用生産財出荷指数	▲																							
富山県	▲																							
石川県	▲																							
福井県	▲																							
長野県	▲																							
岐阜県	▲																							
静岡県	▲																							
愛知県	▲																							
三重県	▲																							
滋賀県	▲																							
C3 耐久消費財出荷指数	▲																							
富山県	▲																							
石川県	▲																							
福井県	▲																							
長野県	▲																							
岐阜県	▲																							
静岡県	▲																							
愛知県	▲																							
三重県	▲																							
滋賀県	▲																							
C4 所定外労働時間(調査産業計)	▲																							
富山県	▲																							
石川県	▲																							
福井県	▲																							
長野県	▲																							
岐阜県	▲																							
静岡県	▲																							
愛知県	▲																							
三重県	▲																							
滋賀県	▲																							
C5 投資財出荷指数	▲																							
富山県	▲																							
石川県	▲																							
福井県	▲																							
長野県	▲																							
岐阜県	▲																							
静岡県	▲																							
愛知県	▲																							
三重県	▲																							
滋賀県	▲																							
C6 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)	▲																							
富山県	▲																							
石川県	▲																							
福井県	▲																							
長野県	▲																							
岐阜県	▲																							
静岡県	▲																							
愛知県	▲																							
三重県	▲																							
滋賀県	▲																							
C7 有効求人倍率(除学卒)	▲																							
富山県	▲																							
石川県	▲																							
福井県	▲																							
長野県	▲																							
岐阜県	▲																							
静岡県	▲																							
愛知県	▲																							
三重県	▲																							
滋賀県	▲																							
拡張系列数	42	43	43	44	41	42	39	38	36	34	30	27	22	20	20	19	14	11	9	10	9	9	8	8
採用系列数	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63
ヒストリカルDI	66.7%	68.3%	68.3%	69.8%	65.1%	66.7%	61.9%	60.3%	57.1%	54.0%	47.6%	42.6%	34.9%	31.7%	31.7%	30.2%	22.5%	17.5%	14.3%	15.9%	14.3%	9.5%	9.5%	9.5%

景気基準日付	2020年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
C1 生産指数(鉱工業)	▲											
富山県	▲											
石川県	▲											
福井県	▲											
長野県	▲											
岐阜県	▲											
静岡県	▲											
愛知県	▲											
三重県	▲											
滋賀県	▲											
C2 鉱工業用生産財出荷指数	▲											
富山県	▲											
石川県	▲											
福井県	▲											
長野県	▲											
岐阜県	▲											
静岡県	▲											
愛知県	▲											
三重県	▲											
滋賀県	▲											
C3 耐久消費財出荷指数	▲											
富山県	▲											
石川県	▲											
福井県	▲											
長野県	▲											
岐阜県	▲											
静岡県	▲											
愛知県	▲											
三重県	▲											
滋賀県	▲											
C4 所定外労働時間(調査産業計)	▲											
富山県	▲											
石川県	▲											
福井県	▲											
長野県	▲											
岐阜県	▲											
静岡県	▲											
愛知県	▲											
三重県	▲											
滋賀県	▲											
C5 投資財出荷指数	▲											
富山県	▲											
石川県	▲											
福井県	▲											
長野県	▲											
岐阜県	▲											
静岡県	▲											
愛知県	▲											
三重県	▲											
滋賀県	▲											
C6 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)	▲											
富山県	▲											
石川県	▲											
福井県	▲											
長野県	▲											
岐阜県	▲											
静岡県	▲											
愛知県	▲											
三重県	▲											
滋賀県	▲											
C7 有効求人倍率(除学卒)	▲											
富山県	▲											
石川県	▲											
福井県	▲											
長野県	▲											
岐阜県	▲											
静岡県	▲											
愛知県	▲											
三重県	▲											
滋賀県	▲											
拡張系列数	7	8	6	5	8	28	31	31	31	31	31	31
採用系列数	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63	63
ヒストリカルDI	11.1%	9.5%	9.5%	7.9%	12.7%	44.4%	49.2%	49.2%	49.2%	49.2%	49.2%	49.2%

(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。

たことがわかる。1月には、長野県の生産指数（鉱工業）、岐阜県の鉱工業用生産財出荷指数、愛知県の百貨店・スーパー販売額（前年同月比）、三重県の実業指数（鉱工業）がマイナスに転じている。つまり、主として生産面の指標が下降に転じたタイミングであったと言える。なお、5月には、ヒストリカルDIの水準が3分の1以下となっており、経済活動の収縮が多く経済部門に波及したことが確認できる。したがって、50（%）を下回った直前の月である2018年12月が景気の山の候補となる。

中部9県のヒストリカルDIの推移を確認すると、2018年11月に47.6（%）まで低下し、50（%）を下回ったことがわかる。11月には、静岡県の実業指数（鉱工業）、鉱工業用生産財出荷指数、滋賀県の鉱工業用生産財出荷指数、投資財出荷指数がマイナスに転じている。つまり、静岡県と滋賀県の経済指標が下降に転じたタイミングであったと言える。なお、2019年2月には、ヒストリカルDIの水準が3分の1以下となっており、経済活動の収縮が多く経済部門に波及したことが確認できる。したがって、50（%）を下回った直前の月である2018年10月が景気の山の候補となる。

## 2. 景気の山の判定方法

中部圏景気基準日付の設定の基本的な考え方は内閣府による全国の景気基準日付に従う。すなわち、前節で見たヒストリカルDIの動向を中心に、3D（①波及度（Diffusion）、②量的な変化（Depth）、③期間（Duration））の確認を行う。また、他の重要指標（実質GRP（Gross Regional Product、域内総生産）、日銀短観の景況感等）の動向も併せて確認する。

具体的には、景気の山の判定に際しては、ヒストリカルDIが50（%）を下回る（過半の指標が下降トレンドとなる）直前の月を山の候補とした上で、①波及度について、経済活動の収縮の波及度（多くの経済部門に波及しているか）を、ヒストリカルDIの水準が景気後退局面で3分の1以下まで下降したかを目安に確認する。そして、③期間について、後退局面が5か月以上続いているかを目安に確認する。

なお、波及度の目安の「（ヒストリカルDIの水準が）3分の1以下まで下降」については、内閣府による全国基準における「ゼロ近傍まで下降」よりも高めに設定している。これは、地域においては景気の爬行性が存在するため、景気後退が地域全体に一律に表れることは稀であり、地域内部で波及のタイミングが前後することから、複数県の指標で算出されるヒストリカルDIがゼロ近傍まで低下することはほとんどないという理由による。同様に、景気変動が地域内部で相殺されて単一指標に明確に表れない可能性があることから、CI一致指数の下降率で確認する②量的な変化や、他の重要指標の動向は相対的に重視せず、参考程度にとどめている点も、全国基準とは異なっている。

## 3. 今次局面の判定について

ここでは、今次局面の景気の暫定山について、前節で説明した判定方法に従い確認する。

ただし、全国のケースとは異なり、複数県を内包する地域においては、ヒストリカル DI を 3 種類定義できるため<sup>4</sup>、波及度について確認した後に、最大 3 つ存在する景気の山候補から CI 一致指数等の動きを参考に 1 つに絞る必要がある。

東海 3 県については、図表 3 のとおりヒストリカル DI-A では 2019 年 4 月が景気の山の候補となる。なお、ヒストリカル DI-B では 2019 年 4 月、ヒストリカル DI-C では 2019 年 1 月が景気の山の候補となっている<sup>5</sup>。1 節で述べたとおり、ヒストリカル DI-A の水準は、2019 年 5 月には 3 分の 1 以下まで下降している。同様にヒストリカル DI-B では 2019 年 5 月、ヒストリカル DI-C では 2019 年 2 月に 3 分の 1 以下まで下降している。以上から波及度は十分であることが確認できる。ここで、2019 年 1 月と 2019 年 4 月を比較すると、CI 一致指数の水準がそれぞれ 102.1、102.7 であり、2019 年 4 月の値が大きい。2019 年 4 月は 2 種類のヒストリカル DI（ヒストリカル DI-A、ヒストリカル DI-B）が示している候補でもあることから、景気の山の候補を 2019 年 4 月に絞る。次に、2019 年 4 月以降、後退局面が十分な期間続いているのかを確認すると、CI 一致指数の局所的なボトムとなっている 2020 年 5 月まで 13 か月が経過しており、後退局面は既に 5 か月以上続いていることを確認できる。また、参考までに量的な変化と他の重要指標の動向を確認すると、量的な変化については、4 節で見るとおり、2019 年 4 月から 2020 年 5 月までの CI 一致指数の下降率が▲29.8%と十分な大きさであり、他の重要指標の動向についても、6 節で見るとおり、実質 GRP、日銀短観の景況感、景気ウォッチャー調査の景況感の動きと大きな齟齬はない。以上から、2019 年 4 月を東海 3 県の景気の暫定山に設定することは、基準に照らし合わせて妥当と判断される。

北陸 3 県については、図表 3 のとおりヒストリカル DI-A では 2018 年 8 月が景気の山の候補となる。なお、ヒストリカル DI-B、ヒストリカル DI-C でも同様である。1 節で述べたとおり、ヒストリカル DI-A の水準は、2018 年 10 月には 3 分の 1 以下まで下降している。同様にヒストリカル DI-B では 2018 年 10 月、ヒストリカル DI-C では 2018 年 9 月に 3 分の 1 以下まで下降している。以上から波及度は十分であることが確認できる。次に、2018 年 10 月以降、後退局面が十分な期間続いているのかを確認すると、CI 一致指数の局所的なボトムとなっている 2020 年 6 月まで 22 か月が経過しており、後退局面は既に 5 か月以上続いていることを確認できる。また、参考までに量的な変化と他の重要指標の動向を確認すると、量的な変化については、4 節で見るとおり、2018 年 8 月から 2020 年 6 月までの CI 一致指数の下降率が▲31.0%と十分な大きさであり、他の重要指標の動向についても、6 節で見るとおり、実質 GRP、日銀短観の景況感、景気ウォッチャー調査の景況感の動きと大きな齟齬はない。以上から、2018 年 8 月を北陸 3 県の景気の暫定山に設定することは、基準に照らし合わせて妥当と判断される。

<sup>4</sup> 詳細は脚注 3 を参照。

<sup>5</sup> 詳細は脚注 2 の資料を参照。以下の北陸 3 県、中部 5 県、中部 9 県についても同様。

中部5県については、図表3のとおりヒストリカル DI-A では2018年12月が景気の山の候補となる。なお、ヒストリカル DI-B、ヒストリカル DI-C でも同様である。1節で述べたとおり、ヒストリカル DI-A の水準は、2019年5月には3分の1以下まで下降している。同様にヒストリカル DI-B、ヒストリカル DI-C では2019年2月に3分の1以下まで下降している。以上から波及度は十分であることが確認できる。次に、2018年12月以降、後退局面が十分な期間続いているのかを確認すると、CI一致指数の局所的なボトムとなっている2020年5月まで17か月が経過しており、後退局面は既に5か月以上続いていることを確認できる。また、参考までに量的な変化と他の重要指標の動向を確認すると、量的な変化については、4節で見るとおり、2018年12月から2020年5月までのCI一致指数の下降率が▲31.8%と十分な大きさであり、他の重要指標の動向についても、6節で見るとおり、実質 GRP、日銀短観の景況感、景気ウォッチャー調査の景況感の動きと大きな齟齬はない。以上から、2018年12月を中部5県の景気の暫定山に設定することは、基準に照らし合わせて妥当と判断される。

中部9県については、図表3のとおりヒストリカル DI-A では2018年10月が景気の山の候補となる。なお、ヒストリカル DI-B では2018年11月、ヒストリカル DI-C では2018年8月が景気の山の候補となっている。1節で述べたとおり、ヒストリカル DI-A の水準は、2019年2月には3分の1以下まで下降している。同様にヒストリカル DI-B、ヒストリカル DI-C では2019年1月に3分の1以下まで下降している。以上から波及度は十分であることが確認できる。ここで、2018年8月、2018年10月、2018年11月を比較すると、CI一致指数の水準がそれぞれ101.5、102.1、101.4であり、2018年10月の値が最大となる。そこで、景気の山の候補を2018年10月に絞る。次に、2018年10月以降、後退局面が十分な期間続いているのかを確認すると、CI一致指数の局所的なボトムとなっている2020年5月まで19か月が経過しており、後退局面は既に5か月以上続いていることを確認できる。また、参考までに量的な変化と他の重要指標の動向を確認すると、量的な変化については、4節で見るとおり、2018年10月から2020年5月までのCI一致指数の下降率が▲30.6%と十分な大きさであり、他の重要指標の動向についても、6節で見るとおり、実質 GRP、日銀短観の景況感、景気ウォッチャー調査の景況感の動きと大きな齟齬はない。以上から、2018年10月を中部9県の景気の暫定山に設定することは、基準に照らし合わせて妥当と判断される。

#### 4. 量的な変化についての確認

ここでは、今次局面におけるCI一致指数の下降率を確認し、過去の後退局面と比較する(図表4)。併せて、今次と過去の拡張局面および後退局面について、CI一致指数の各指標の寄与率を比較する(図表5)。

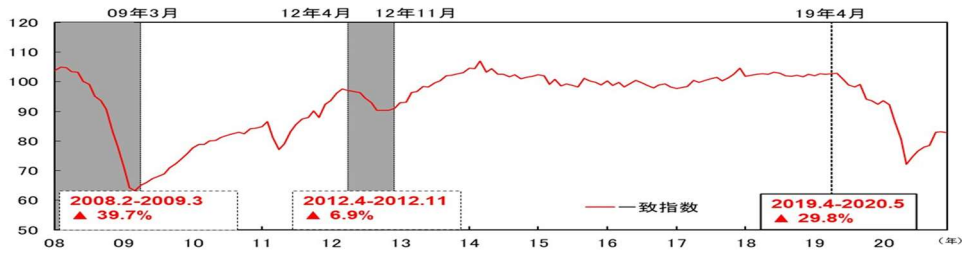
東海3県の今次局面におけるCI一致指数の下降率は2020年5月を谷と仮定すると▲

29.8%であり、リーマンショック時に相当する 2008 年 2 月から 2009 年 3 月の下落率▲39.7%よりも小さいが、2012 年 4 月から 2012 年 11 月の下落率▲6.9%よりも大きい。同様に、北陸 3 県の今次局面における CI 一致指数の下降率は 2020 年 6 月を谷と仮定すると▲31.0%であり、リーマンショック時に相当する 2008 年 3 月から 2009 年 4 月の下落率▲34.3%よりもわずかに小さい。中部 5 県の今次局面における CI 一致指数の下降率は 2020 年 5 月を谷と仮定すると▲31.8%であり、リーマンショック時に相当する 2008 年 2 月から 2009 年 3 月の下落率▲38.4%よりも小さいが、2012 年 4 月から 2012 年 11 月の下落率▲5.7%よりも大きい。中部 9 県の今次局面における CI 一致指数の下降率は 2020 年 5 月を谷と仮定すると▲30.6%であり、リーマンショック時に相当する 2008 年 3 月から 2009 年 3 月の下落率▲36.3%よりも小さいが、その差は大きいものではない。いずれにしても、どの地域においても、コロナ禍を含む今次局面における CI 一致指数の下落率は、リーマンショック時と比較すれば小さいが、後退局面として十分な大きさであることが確認できる。なお、リーマンショックでは、外需が極端に落ち込み、輸出産業を中心とする製造業、とりわけ東海 3 県の自動車産業が大きなダメージを受けた。比較すると、コロナ禍では、もちろん外需の落ち込みの影響はあるものの、小売業、飲食・宿泊業など対面サービス業への影響が特に大きいという特徴がある。「ものづくり」地域としての中部圏において、CI 一致指数の下落率がリーマンショックの方が相対的に大きいのは、こうした背景によるものと考えられる。

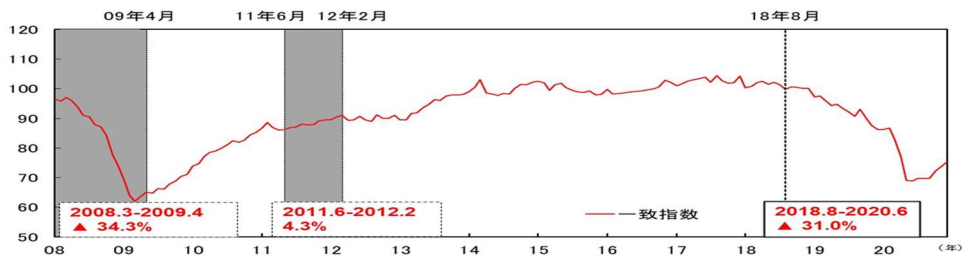
次に、CI 一致指数の各指標の寄与率を見ると、どの地域についても、前回拡張局面では雇用面の指標である有効求人倍率の寄与が大きかったのに対し、今次拡張局面では生産面の指標（生産指数（鉱工業）、生産財出荷指数）と雇用面の指標（所定外労働時間指数（調査産業計）、有効求人倍率）の寄与が相対的に大きくなっていることがわかる。また、2014 年 4 月の消費税増税を反映して、消費面の指標（耐久消費財出荷指数、百貨店・スーパー販売額（前年同月比））が低迷したことも、今次拡張局面の特徴と言える。最後に、後退局面について、リーマンショック時と今次のコロナ禍を比較すると、一見して目立った違いはないが、総じて今次後退局面では消費面の指標の寄与が相対的に大きく、生産面の指標の寄与が小さい。やはり、リーマンショックとの比較において、コロナ禍は製造業の生産活動よりも家計の消費活動そのものを直撃したことが、経済指標にも表れていると言えよう。

図表4 CI一致指数（2015年=100） 各後退局面の下落率

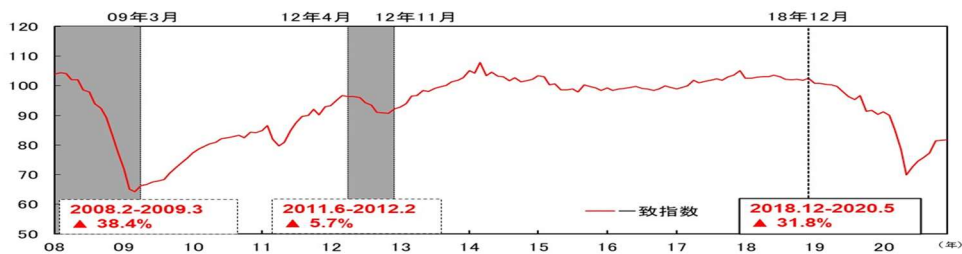
東海3県



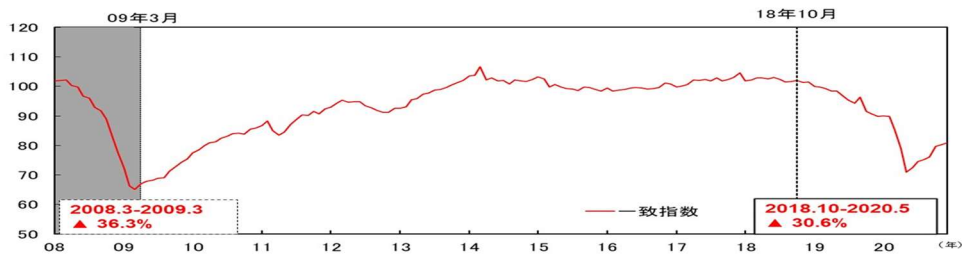
北陸3県



中部5県



中部9県



(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。シャドー箇所は景気後退局面。

図表5 CI一致指数の各指標の寄与率

前回拡張局面と今次拡張局面の比較

リーマンショックとコロナ禍の比較

東海3県

	2009年3月 - 2012年4月	2012年11月 - 2019年4月		2008年2月 - 2009年3月	2019年4月 - 2020年5月
生産指数(鉱工業)	12.5	22.4	生産指数(鉱工業)	12.0	12.1
生産財出荷指数	14.6	18.6	生産財出荷指数	14.8	10.8
耐久消費財出荷指数	3.5	-2.1	耐久消費財出荷指数	6.5	8.9
所定外労働時間(調査産業計)	13.9	28.6	所定外労働時間(調査産業計)	15.7	16.5
投資財出荷指数	6.5	12.1	投資財出荷指数	10.0	9.4
百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	2.3	-3.9	百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	2.7	1.9
有効求人倍率	46.8	24.3	有効求人倍率	38.2	40.4
合計	100.0	100.0	合計	100.0	100.0

北陸3県

	2009年4月 - 2011年6月	2012年2月 - 2018年8月		2008年3月 - 2009年4月	2018年8月 - 2020年6月
生産指数(鉱工業)	18.5	21.1	生産指数(鉱工業)	16.9	10.9
生産財出荷指数	16.6	30.8	生産財出荷指数	14.8	10.6
耐久消費財出荷指数	0.3	-16.7	耐久消費財出荷指数	2.6	10.2
所定外労働時間(調査産業計)	12.3	3.4	所定外労働時間(調査産業計)	14.6	15.1
投資財出荷指数	10.1	11.4	投資財出荷指数	12.5	7.9
百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	4.1	3.1	百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	4.7	6.0
有効求人倍率	38.1	46.9	有効求人倍率	34.0	39.4
合計	100.0	100.0	合計	100.0	100.0

中部5県

	2009年3月 - 2012年4月	2012年11月 - 2018年12月		2008年2月 - 2009年3月	2018年12月 - 2020年5月
生産指数(鉱工業)	12.7	20.4	生産指数(鉱工業)	13.8	11.7
生産財出荷指数	16.4	19.7	生産財出荷指数	16.0	13.3
耐久消費財出荷指数	4.0	-8.2	耐久消費財出荷指数	7.1	7.9
所定外労働時間(調査産業計)	12.0	20.1	所定外労働時間(調査産業計)	14.5	12.8
投資財出荷指数	4.5	14.0	投資財出荷指数	8.8	8.1
百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	2.3	0.5	百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	3.0	4.6
有効求人倍率	48.0	33.5	有効求人倍率	36.7	41.7
合計	100.0	100.0	合計	100.0	100.0

中部9県

	2009年3月 - 2018年10月		2008年3月 - 2009年3月	2018年10月 - 2020年6月
生産指数(鉱工業)	15.3	生産指数(鉱工業)	14.7	12.1
生産財出荷指数	16.8	生産財出荷指数	16.4	14.2
耐久消費財出荷指数	-2.1	耐久消費財出荷指数	5.4	8.5
所定外労働時間(調査産業計)	14.2	所定外労働時間(調査産業計)	15.3	14.6
投資財出荷指数	5.0	投資財出荷指数	9.7	7.1
百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	2.2	百貨店・スーパー販売額(既存店)(前年同月比)	4.2	4.4
有効求人倍率	48.6	有効求人倍率	34.3	39.1
合計	100.0	合計	100.0	100.0

(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。なお、便宜的に、リーマンショックの山を2008年2月(東海3県、中部5県)または3月(北陸3県、中部9県)、コロナ禍の谷を2020年5月(東海3県、中部5県、中部9県)または6月(北陸3県)として計算している。

## 5. 拡張期間の長さについての確認

内閣府による全国の景気基準日付（図表6）では、2018年10月を暫定山とした場合、2012年12月からの第16循環の拡張期間は71か月となり、2002年2月から2008年2月まで73か月間続いた、いわゆる「いざなぎ景気」を超える「戦後最長」の拡張期間とはならなかった。

図表1により、あらためて中部圏景気基準日付における今次の景気拡張期間を確認すると、東海3県では、2019年4月を暫定山とした場合、2012年12月からの拡張期間は77か月であり、2009年4月から2012年4月までの前回拡張期間の37か月を上回る長さとなっている。北陸3県では、2018年8月を暫定山とした場合、2012年3月からの拡張期間は78か月であり、2009年5月から2011年6月までの前回拡張期間の26か月を上回る長さとなっている。中部5県では、2018年12月を暫定山とした場合、2012年12月からの拡張期間は73か月であり、2009年4月から2012年4月までの前回拡張期間の37か月を上回る長さとなっている。中部9県では、2018年10月を暫定山とした場合、2009年4月からの拡張期間は115か月である。

単純な比較はできないが、東海3県、北陸3県における今次の景気拡張期間の長さは、全国のいわゆる「いざなぎ景気」の拡張期間73か月を上回るものとなっている（中部5県は73か月ちょうど）。海外経済の好調さにも支えられた今次の景気拡張局面では、輸出産業など製造業が盛んな中部圏の好調が相対的に長期にわたり続いたと考えられる。

図表6 全国の景気基準日付

	谷	山	谷	期間		
				拡張	後退	全期間
第14循環	2002年1月	2008年2月	2009年3月	73か月	13か月	86か月
第15循環	2009年3月	2012年3月	2012年11月	36か月	8か月	44か月
第16循環	2012年11月	(暫定) 2018年10月		71か月		

（出所）内閣府「景気基準日付」。



## 6. 重要指標の動きの確認

最後に、それぞれの地域における実質 GRP、日銀短観の景況感、景気ウォッチャー調査の景況感の動きを確認する。

図表 7 によると、東海 3 県の実質 GRP は、2014 年度にマイナス成長も、2015 年度から 2017 年度まで 3 年連続のプラス成長となっている。東海 3 県の日銀短観における業況判断 DI (全産業) は、2018 年 12 月調査でピークをつけてから徐々に低下し、2020 年 3 月調査以降はマイナスとなっている。東海<sup>6</sup>の景気ウォッチャー調査における景気の現状判断 (水準) DI は、2018 年から徐々に低下し、2019 年前半にわずかに回復したものの、以降は低下基調で推移した。以上からは、いずれの指標の動きについても、東海 3 県の CI 一致指数の動向および 2019 年 4 月を暫定山とすることと大きな齟齬はないことが確認できる。

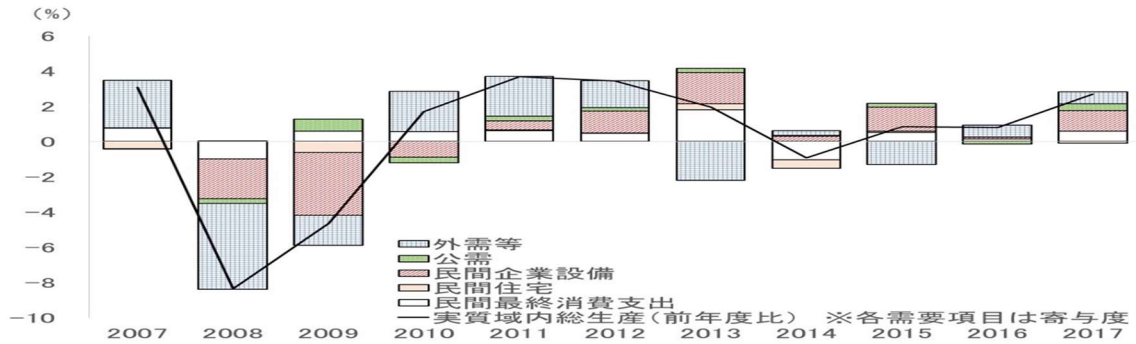
また、図表 8 によると、北陸 3 県の実質 GRP は、2014 年度と 2016 年度はマイナス成長、2015 年度と 2017 年度はプラス成長となっている。北陸 3 県の日銀短観における業況判断 DI (全産業) は、2018 年 12 月調査でピークをつけてから徐々に低下し、2019 年 12 月調査以降はマイナスとなっている。北陸 3 県の景気ウォッチャー調査における景気の現状判断 (水準) DI は、2019 年前半から急落した。以上からは、いずれの指標の動きについても、北陸 3 県の CI 一致指数の動向および 2018 年 8 月を暫定山とすることと大きな齟齬はないことが確認できる。

同様に、図表 9、図表 10 を見ても、中部 5 県、中部 9 県の指標の動きは、それぞれの CI 一致指数の動向および 2018 年 12 月、2018 年 10 月を暫定山とすることと大きな齟齬はないことが確認できる。

<sup>6</sup> ここでの東海は岐阜県、静岡県、愛知県、三重県。

図表7 東海3県の重要指標

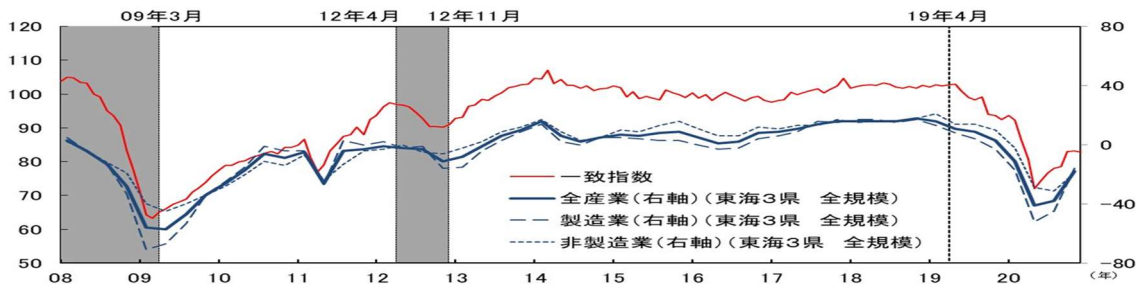
実質 GRP（東海3県計、前年度比）の動き



(出所) 内閣府「県民経済計算」より当財団作成。

CI 一致指数（東海3県、2015年=100）と

日銀短観 業況判断 DI（東海3県、%ポイント）の比較



(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。日本銀行名古屋支店「東海3県の企業短期経済観測調査」。シャドー箇所は景気後退局面。

CI 一致指数（東海3県、2015年=100）と

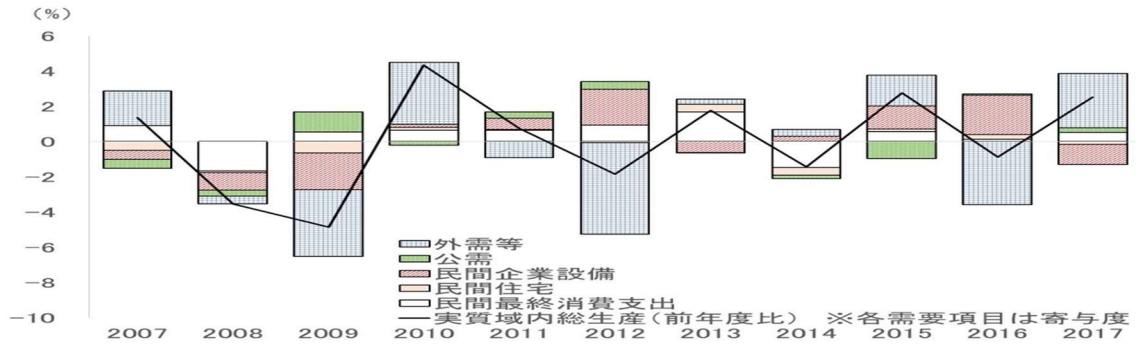
景気ウォッチャー調査 景気の現状判断（水準）DI（東海）の比較



(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。内閣府「景気ウォッチャー調査」。シャドー箇所は景気後退局面。

図表8 北陸3県の重要指標

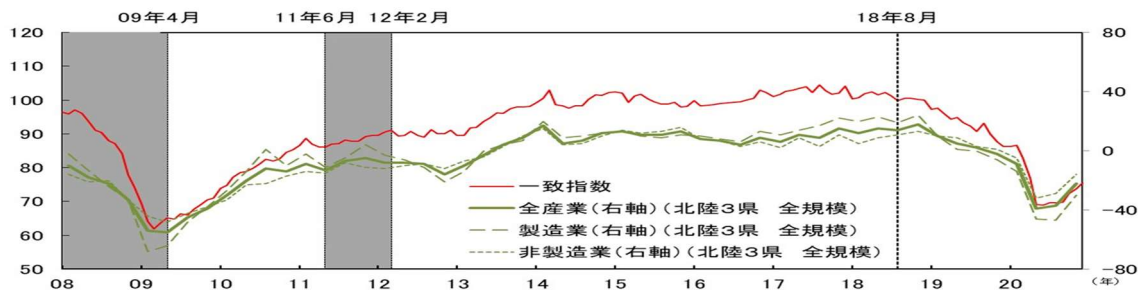
実質 GRP（北陸3県計、前年度比）の動き



（出所）内閣府「県民経済計算」より当財団作成。

CI 一致指数（北陸3県、2015年=100）と

日銀短観 業況判断 DI（北陸3県、%ポイント）の比較



（出所）当財団「中部圏景気動向指数」。日本銀行金沢支店「北陸短観」。シャドー箇所は景気後退局面。

CI 一致指数（北陸3県、2015年=100）と

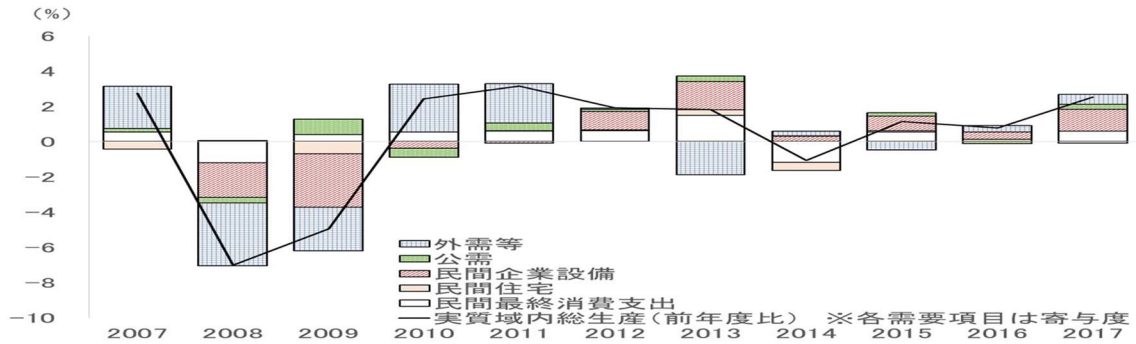
景気ウォッチャー調査 景気の現状判断（水準）DI（北陸）の比較



（出所）当財団「中部圏景気動向指数」。内閣府「景気ウォッチャー調査」。シャドー箇所は景気後退局面。

図表9 中部5県の重要指標

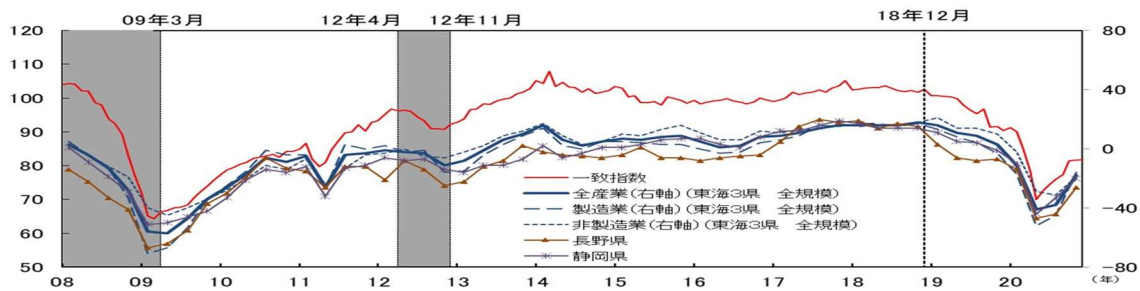
実質 GRP（中部5県計、前年度比）の動き



(出所) 内閣府「県民経済計算」より当財団作成。

CI 一致指数（中部5県、2015年=100）と

日銀短観 業況判断 DI（東海3県、長野県、静岡県、%ポイント）の比較



(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。日本銀行名古屋支店「東海3県の企業短期経済観測調査」、松本支店「企業短期経済観測調査（長野県）」静岡支店「静岡県の企業短期経済観測調査結果」。シャドー箇所は景気後退局面。

CI 一致指数（中部5県、2015年=100）と

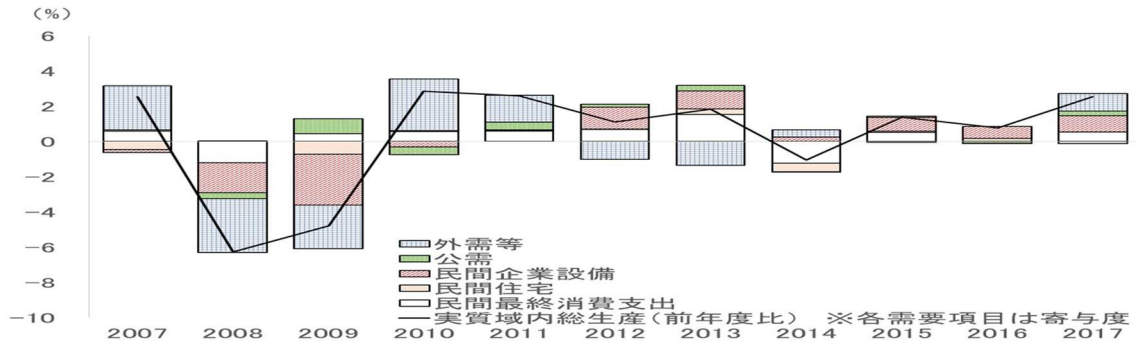
景気ウォッチャー調査 景気の現状判断（水準）DI（東海）の比較



(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。内閣府「景気ウォッチャー調査」。シャドー箇所は景気後退局面。

図表 10 中部9県の重要指標

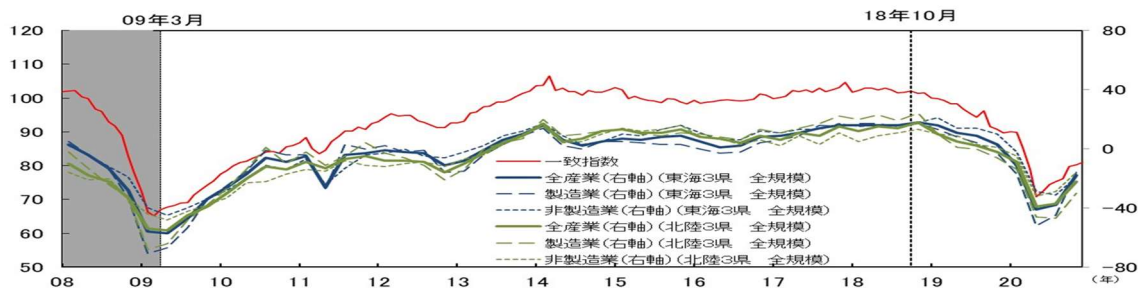
実質 GRP (中部9県計、前年度比) の動き



(出所) 内閣府「県民経済計算」より当財団作成。

CI 一致指数 (中部9県、2015年=100) と

日銀短観 業況判断 DI (東海3県、北陸3県、%ポイント) の比較



(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。日本銀行名古屋支店「東海3県の企業短期経済観測調査」、金沢支店「北陸短観」。シャドー箇所は景気後退局面。

CI 一致指数 (中部9県、2015年=100) と

景気ウォッチャー調査 景気の現状判断 (水準) DI (東海、北陸) の比較



(出所) 当財団「中部圏景気動向指数」。内閣府「景気ウォッチャー調査」。シャドー箇所は景気後退局面。

---

## 最近の中部社研経済レポート

No.	発表年月日	タイトル
33	2021年7月29日	中部圏景気基準日付（景気の暫定山）の設定について
32	2021年7月15日	財政ポピュリズムを排して0票世代の権利を守るためには何が必要なのか？
31	2021年7月8日	よりよき財政を実現するには？－財政破綻論争を超えて－
30	2021年6月15日	世代会計から見た財政健全化の必要性について
29	2021年3月9日	ギャンブルを続ける日本財政 ～10年後の国の「財政破綻確率」は50%～
28	2021年1月15日	2020、2021年度 民間企業設備の見通しについて ～コロナ禍における設備投資の動向～
27	2020年9月11日	「家計調査」に見る特別定額給付金の進捗 ～地域差大きく、「迅速かつ的確」とはならず～
26	2020年5月20日	新型コロナウイルス感染症が全国・中部圏の産業別の 雇用に与える影響について
25	2020年4月24日	新型コロナウイルス感染症が2020年度の全国・中部圏 に与える経済的な影響について
24	2020年4月15日	法人企業統計調査を用いた労働生産性の要因分解～向 上のカギは大規模製造業にあり～
23	2020年2月4日	新型肺炎が各県の訪日中国人旅行消費額に与える影響
22	2019年10月8日	日韓関係の悪化等が全国・中部圏に与える経済的な影響 について
21	2018年12月19日	消費税率引上げと増税対策が家計に与える影響につい て

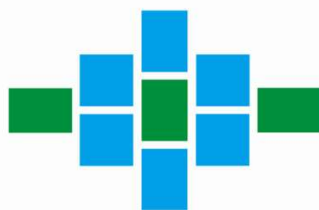
<http://www.criser.jp/bunnseki/report.html>

No.20 以前のレポートは上記 URL から検索できます

---

本レポートは、わたしたちの社会・経済に関するタイムリーな話題を、平易かつ簡潔に解説するために執筆されているものです。レポート内の意見や予測等は執筆時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。内容に関する一切の権利は公益財団法人中部圏社会経済研究所にあります。レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。本レポートに関するお問い合わせは、[criser@criser.jp](mailto:criser@criser.jp) にご連絡下さい。

---



Chubu Region Institute for Social and Economic Research

公益財団法人  
中部圏社会経済研究所